



# 開物成務

平成30年 7月 18日(火)発行

校長 津田 将美

1年生の道徳「ぼくのおさがお」という授業です。授業の初めに、「今までに、どんなお花やお野菜の世話をしてきましたか？」と聞くと、ほとんどの子どもたちが元気に手を挙げました。「ひまわり」「おしろいばな」「チューリップ」「キュウリ」「ミニトマト」「スイカ!!」なかなか家庭でも植物の世話をしている子が多らしく、たくさんの種類の花や野菜が挙げられました。

「先生、むしでもいいの？」

「うん、いいよ。なあに？」

「え〜とね、かまきり！」

植物にも虫にも、小さな命があります。そういう命と生活の中で向き合っていることは、とても貴重な体験です。今1年生全員が、教室のすぐ外でお世話をしている「おさがお」も、もちろん出てきました。

「先生もね、家で野菜を育てていたんだけど、なすを支柱に結びつけるの忘れてたら、風でポキッとおれちゃったんだ。」

「ああ〜。」

一生懸命世話をした経験のある子どもたちは、すぐになすの状況に寄り添ってくれました。

「でもね、あきらめないで折れたのをそっと支柱に結びつけて、水をあげたんだ。」

「そうしたら？」

「そうしたら…先っぽの方から、枯れてきちゃった…。」

「ああ〜。」

「でもね、あきらめずに水をあげていたら…。」

「あげていたら？」

「それは、お勉強の最後に話します。」

「ええ〜、今知りたい。」

「でも、楽しみ…。」

様々な反応も、なすの小さな命に寄り添っているからです。

それから、教材文を読んで話し合いをしました。

「しおれたおさがおを見たとき、ぼくの気持ちはどんなだったのか。」

「『ごめんね』となんかいも言った『ぼく』は、どんなことを考えたのか。」

「小さな蕾をみつけたとき、『ぼく』はどんなことを思ったのか。」

さすが、開成小学校の1年生です。たくさんの子が、自分の経験をもとに命に寄り添う意見をたくさん出してくれました。最後に、

**「生き物には、やさしい気持ちで一生懸命世話をしよう。」**

というまとめをすることができました。

「みんな、いい意見をたくさん出してくれたから、さっきのなすのお話をつづけるね。」

「うん！」

「それからね、あきらめずにお水をあげてたんだ…。そしたらね…」

「先っぽはかれちゃったけど、根元からまた新しい芽が出てきて、伸びてきたんだよ。」

「うわあ〜。」

「よかったあ。」

「だからね、みんなが言ってたみたいに、やさしい気持ちで世話をすることは大切だよね。」

「うん！！」

「じゃ、5時間目終わりにします。一生懸命がんばったから、のどかわいたでしょ。」

「うん！！」

「お水を飲んでから、帰りの支度をしましょう。あっ、あさがおの水やりを先にやってもいいよ。」

5時間目の終了のあいさつをした後、ほとんどの子が、あさがおの水やりに向かいました。



# いのちを守る

## 第2回 家庭教育学級

7月5日(木)

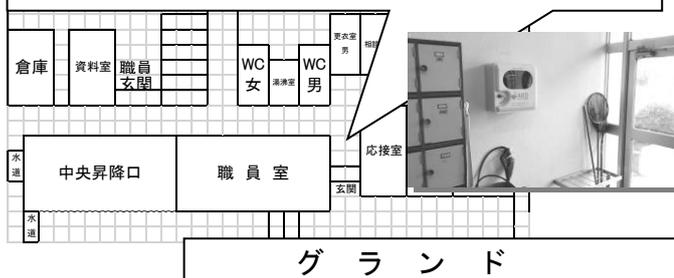
成人教育委員会により「子どもたちの事故防止の時の対応」というテーマで行われました。今回は、放課後子ども教室のスタッフの方々も参加してくださいました。「子どもの命」に関わるもので、心肺蘇生術や AED を使った実技もあったので、参加者の顔は真剣そのものでした。

成人教育委員会では、2年に1回のペースでこのような研修をしてくださっているそうです。子どもたちの「命を守る」ことは、学校としても最優先の課題ですので、このことに関しても学校、家庭、地域で連携をしていけることは、本当にありがたいことです。成人教育委員会の皆様、参加者の皆様、ありがとうございました。



真剣な研修会の様子

開成小学校のAEDは、職員室と応接室の間の職員玄関（南側）に設置されています。



# 水泳学習が終了しました

## 水辺の安全教室

7月10日(火)

水泳学習のまとめとして、神奈川ライフセービング連盟より講師をお招きして、「水辺の安全教室」を行いました。これからの季節、楽しい水辺での遊びが一瞬にして辛く悲しい体験になってしまう事例が多々あります。子どもたちに水難事故を防止する力をつけるために、今年度、実施することにしました。

実際に具体的な映像を交えての危険箇所の紹介や水辺に潜む危険の学習だったので、子どもたちも真剣に聞いて、講師の方の問いには多くの児童が手を挙げて答えようとしていました。

海には、「離岸流（岸から海に向かっての強い流れ）」というものがあること、海の事故より川の事故の方がとても多いこと、川には「急に深くなる」「複雑な流れがある」「急な増水」など多くの危険性があること、川に落ちてしまったら「まず、あわてない」こと、服や靴は脱がずに大の字で足を川下に向けて背浮きすること、落ちている人を見たら助けに行かずに大人を呼ぶこと、などを学びました。

また、おぼれている人に向かって声をかけたり、ペットボトルのような浮力のあるものを投げたりする実技もあり、大切な学びができたようです。

とにかく、「自分はだいじょうぶ」とは思わずに、「自分の身は自分で守る」という心構えだけはしっかり持っていたいものです。

学んだことを生かして、自然といい付き合い方をしながら、より良く生きる資質を磨いていってほしいと思います。



ペットボトルを使った実技

## 1学期がまもなく終了します。

保護者の皆様には、水泳ボランティアを始め、多くの面でご支援、ご協力をいただき、本当にありがとうございました。

学校では体験的な学びを大切にしながら、様々な面から子どもたちの「学ぶ力」「他を思いやる力」等を育ててきました。夏休みは、学校ではできない体験的な学びの大きなチャンスです。子どもたちにはぜひ、充実した日々を過ごしてもらって、ひとまわりたくましくなって登校してきてほしいと思います。ご家族で、よい夏をお過ごしください。